

長野県「山の日」懇話会 次 第

－ 第 2 回 －

日時 平成 25 年 8 月 1 日 (木) 午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分まで
場所 県庁議会増築棟 404・405 号会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 会議事項

(1) 長野県の「山の日」(仮称)の制定趣旨について

(2) 長野県の「山の日」(仮称)の期日について

(3) 長野県の「山の日」(仮称)の名称について

(4) 長野県の「山の日」(仮称)の制定を契機とした取組について

(5) 意見の整理

(6) その他

4 閉 会

別紙

「長野県『山の日』懇話会」有識者等名簿

(五十音順、敬称略)

構 成 員 名	役職名	氏 名	備 考
北アルプス山小屋友交会	会長	赤 沼 健 至	あかぬま けんじ
映像作家	—	井 上 のぞみ	いのうえ のぞみ
大町市	市長	牛 越 徹	うしこし とおる
(公社) 日本山岳会信濃支部	総務担当	垣 内 雄 治	かきうち ゆうじ
蝶ヶ岳ヒュッテ	代表	神 谷 圭 子	かみや けいこ
北アルプス登山案内人組合連合会	事務局	木 谷 功七郎	きたに こうしちろう
長野県中学校校長会	幹事	神 津 長 生	こうづ なおお
八ヶ岳観光協会	会長	島 立 健 二	しまだて けんじ
根羽村森林組合	—	杉 山 紘 子	すぎやま ひろこ
信州大学山岳科学総合研究所	所長	鈴 木 啓 助	すずき けいすけ
木曾町	町長	田 中 勝 已	たなか かつみ
(一社) 信州・長野県観光協会	専務理事	塚 田 英 雄	つかだ ひでお
クッキングコーディネーター	—	浜 このみ	はま このみ
長野県木材協同組合連合会	理事長	細 川 忠 國	ほそかわ ただくに
北アルプス北部山小屋組合	代表	松 沢 貞 一	まつざわ ていいち
(社) 長野県経営者協会	専務理事	水 本 正 俊	みずもと まさとし
長野県山岳協会	会長	宮 本 義 彦	みやもと よしひこ
ライター	—	山 本 佳 子	やまもと よしこ
八ヶ岳山岳ガイド協会	会長	米 川 正 利	よねかわ まさとし
長野県自然保護連盟	理事長	渡 辺 隆 一	わたなべ りゅういち
		20名	

[オブザーバー]

環境省長野自然環境事務所	所長	牛 場 雅 紀	うしば まさき
林野庁中部森林管理局	計画保全部長	宿 利 一 弥	しゅくり かずや

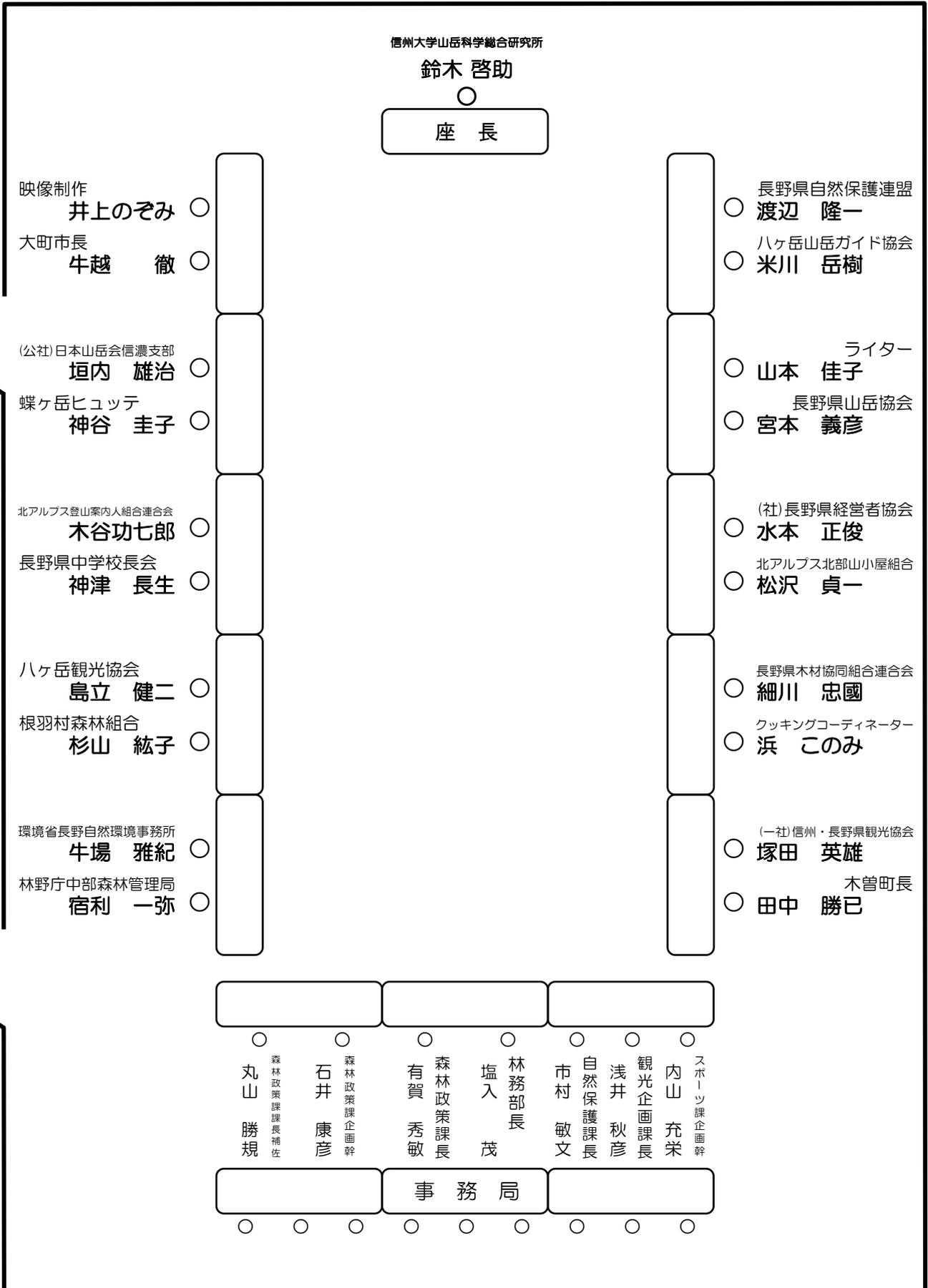
[事務局(長野県の「山の日」制定庁内連絡会議 幹事)]

長野県林務部	部長	塩 入 茂	
長野県環境部自然保護課	課長	市 村 敏 文	
長野県観光部観光企画課	課長	浅 井 秋 彦	
長野県林務部森林政策課	課長	有 賀 秀 敏	
長野県教育委員会スポーツ課	課長	茅 野 繁 巳	
長野県林務部森林政策課	企画幹	石 井 康 彦	

第2回 長野県「山の日」懇話会 配席図

日時 平成25年 8月 1日(木)午後 1時30分から午後 4時まで

場所 長野県庁議会増築棟 404・405号会議室



(注)配席：五十音順(反時計回り)、敬称略

長野県の「山の日」(仮称)の制定に向けたスケジュール

区分	H25												H26			
	~2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	X月X日	
県議会					6月議会			9月議会		11月議会			2月議会			
					議連勉強会			議連勉強会								
県								県の考え方(案)の公表		長野県の「山の日」の骨子公表					山の日制定(宣言)	
庁内会議等	(勉強会)	(準備会)		第1回		第2回		第3回			第4回					
調査等			県政モニター						パブリックコメント							
			→	分析	結果公表				→	結果公表						
長野県「山の日」懇話会					第1回(6/5)		第2回(8/1)		意見書提出							
シンポジウム								シンポジウムの開催							制定行事	
予算等									予算要求							
									→	要求公表				予算決定		
市町村									意見照会						(行事併催)	
									→	結果公表						
関係団体等								シンポジウム参加	(意見収集)						(行事併催)	
その他								隣県との意見交換								

長野県の「山の日」(仮称)の制定に関するアンケート調査結果

長野県林務部

1 調査の概要

東京都等で開催された行事への参加者等を対象に、本県の「山」のイメージや本県独自の「山の日」(仮称)の期日等に関するアンケート調査を実施

(1) 行事等

- ・みどりの感謝祭(東京都日比谷公園)
- ・長野県フェア(東京都吉祥寺)
- ・ふるさと信州寄付金に御協力いただいた方にダイレクトメールで送付

(2) アンケート調査項目

問1 長野県の「山」のイメージ

清浄な空気や水を育む場所	スキーや登山などのスポーツの場
美しい景観を形成するもの	山岳等を活用した観光の場
険しくそびえる山岳	集落に身近な里山
その他()	

問2 長野県の「山の日」(仮称)の制定時期

月頃(理由:) 具体的な候補期日(月 日)

問3 長野県の「山の日」(仮称)の制定目的

山岳観光の振興	山岳環境の保全	登山等を通じた教育の振興
里山をはじめとする健全な森林づくり	その他()	

問4 お住まいの地域

2 回答者数(平成25年7月31日現在)

98名

3 集計結果一覧

区分	設問及び回答者数						
	清浄な空気や水を育む場所	スキー等のスポーツの場	美しい景観を形成するもの	山岳等を活用した観光の場	険しくそびえる山岳	集落に身近な里山	その他
問1	45	24	24	8	8	3	0
問2 (理由)	5月	8月	7月	6月	その他		
	31	24	24	11	18		
問3	健全な森林づくり	山岳環境の保全	山岳観光の振興	登山等を通じた教育の振興	その他		
	38	30	24	7	0		
問4	関東	近畿・四国・中国	その他				
	88	6	4				

(注)問1、2及び3については複数回答があるため、(3)回答者数と一致しない。

4 分析結果

- ・長野県の「山」に対するイメージは「清浄な空気や水を育む場所」が最も多く(45.9%)、次いで「スポーツの場」、「景観」となり、県政モニター調査の結果と同様の傾向
- ・期日は5月、7月、8月が多く、理由として「新緑」、「気候が安定」、「夏休み」、「山がきれい」、「登山の最盛期」など
- ・制定目的としては「健全な森林づくり」、「山岳環境の保全」、「山岳観光の振興」の順

観光地点パラメータ調査(平成25年度第Ⅰ期4～6月分)調査結果(抄)

1 調査の概要

(1) 趣旨

観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づく観光地点パラメータ調査に併せ、「長野県の『山の日』の制定」について、県内12か所の観光地点においてヒアリング調査を実施した。

(2) 「長野県の『山の日』の制定」に関する設問及び回答者数

ア 設 問

長野県では、山岳や森林から受けている様々な恵みに感謝する日として、長野県独自の「山の日」の制定を検討しています。
「長野県の山の日」(仮称)を制定する月について、最も適切だと思うのはいつですか。また、その月を選んだ理由をお答えください(※1つだけ)。

イ 回答者数

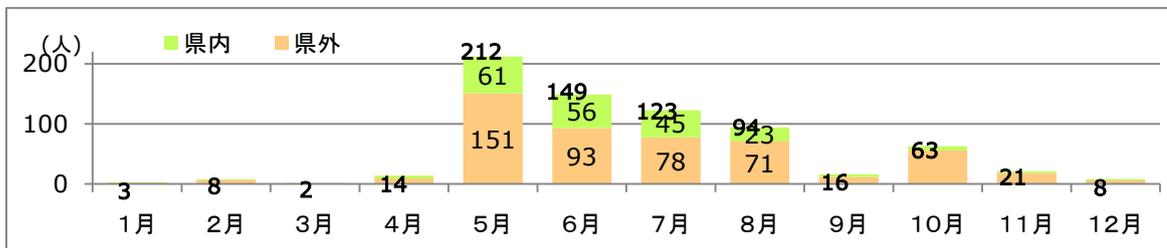
(単位：人)

区分	全体	男性	女性	0～29歳	30～49歳	50～69歳	70歳以上
回答者数	713 100%	427 60%	286 40%	64 9%	232 33%	338 47%	77 11%
県内	209 29%	123 59%	86 41%	27 13%	82 39%	84 40%	16 8%
県外	504 71%	304 60%	200 40%	37 7%	150 30%	254 50%	61 12%

2 調査結果

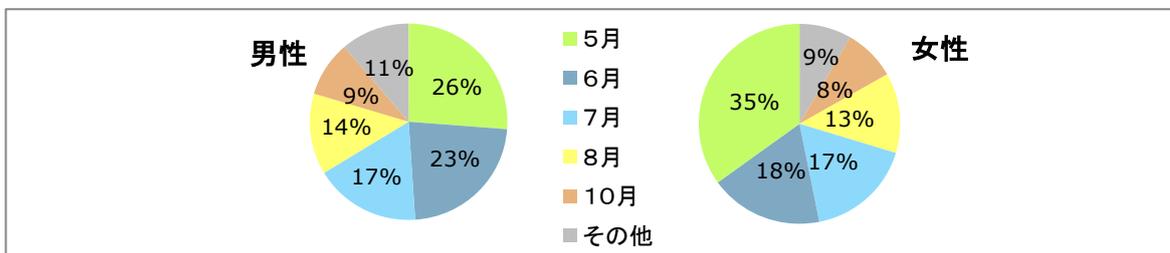
(1) 住居地別の調査結果

「5月」が29.7%で最も多く、次いで「6月」(20.9%)、「7月」(17.3%)、「8月」(13.2%)で、県内外を問わず傾向は同様。



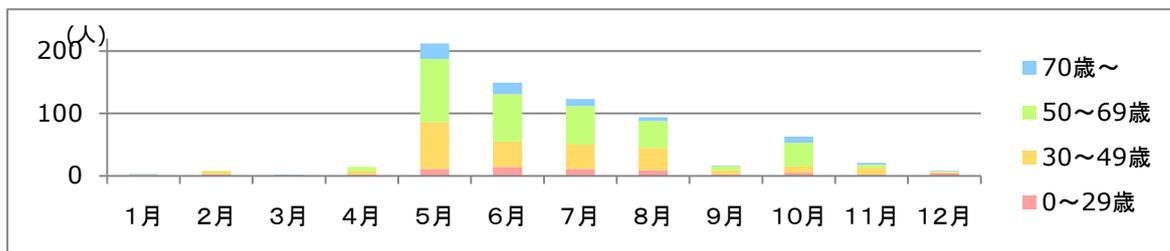
(2) 性別の調査結果

男女とも、傾向は同様で、女性の「5月」の割合がやや高い。



(3) 年代別の調査結果

年代別にも傾向は同様。



長野県の「山の日」(仮称)の制定に関する有識者意見・提案 【制定趣旨】

区分	制定趣旨
赤沼さん	世界中から注目される美しい自然を持つ長野県の山岳を県民が自分の郷土としてより深く理解し魅力を共有するため。
井上さん	信州の恵みを感じ・活かす。そしてつなぐ。 山や自然を知り、広大な信州の自然を多様な視点から体感する。 長野県は面積として南北に広く、標高の差もたくさんの里山～高山多くの山に囲まれて生活している。 山や自然に囲まれることが『あたりまえ』のように生活している今、多くの森林・河川・生物に恵まれた土地の中での再発見を親子でし、自然を楽しむココロを共有でき文化として皆で育んで行けるための趣旨。
牛越さん	四季折々の変化に富んだ美しく豊かな大自然を有する山岳を、私たち県民共通の財産として、広く山の効用を享受し、山の恵みに感謝するとともに、自然に親しみ、生きた学習の場とし、観光や登山などの余暇活動を楽しむ場として積極的に活用しつつ、自然環境を保全して次の世代に伝えていかなければなりません。山と自然に親しみ、愛する意識の高揚を一層促進するため「山の日」を制定します。
垣内さん	里の山から 高山まで 広く自然に感謝し 森の豊かな恵みに感謝し 豊かな生活の場としての「やま」に心をいたし 山の日を制定する
神谷さん	長野県民にとって、日々の生活や文化、社会に強く結びつくやまの恵みは多大であり、深く感謝するとともに、次世代へ、この美しい自然を守り続けなければならない使命を持つというための意識を再確認する日
神津さん	人々の生活に根ざした山岳や里山、川なども含めた「山々」に対する様々なおもしろい願いが、「山の日」に自発的な自然体験活動や環境保全活動、文化活動などとして結実し、実践されることを通して、県民がふるさと信州の山々に対して一層愛着をもつとともに、その美しさや恵みを次世代に伝えていくことを期して「山の日」を制定したい。
島立さん	長野県民が自然と親しむ機会とする。 長野県民が自然の恩恵を実感する機会とする。 長野県民が自然に感謝する機会とする。 長野県民が自然を慈しむ機会とする。 [県民外へのアピール等(観光面)は制定段階では重視せず、純粋に長野県民が自然とつながることを謳ったほうが意味合いは強まると思います]
杉山さん	信州は昔より山の恩恵を受け、山と身近な存在にあったのに対し、現在距離感ができ始めている。信州の山の恵みを発見・再確認し、感謝する日としたい。
田中さん	山の日制定には賛成します。信州は山の国であり、山と共に生き暮らしてきました。その山の恵みに感謝し、愛しむ心を高め、自らの生活を見つめ直す日として、山の日制定に賛同します。
浜さん	山からの恵みに感謝し、それを実感できるような日として山の日を制定するべきと考えます。
松沢さん	美しい自然や山の恵みに感謝し、再確認する機会とする。 美しい自然や山について、その恵みに感謝し、日常生活の中でどのようにふれあいどのように活用し、どのように守り、次代に引き継いでいくかを考える機会とする。
水本さん	身近にあり過ぎる「山」に対して、すべての長野県民が「山」の存在を認識し、感謝と課題を考える日とする。
宮本さん	【前提】 ・『山』の定義：里山から高山まで、また森林から山岳まで長野県の自然の大部分と考える。 ・『山の日』は、登山の日と狭く考えない。 【制定趣旨の要点】 ・山の恩恵への感謝、山に学ぶ、山に親しむ、時代への引き継ぎ ・子どもたちの山への気づき、近づきのきっかけ
山本さん	「山の日」を制定し、それぞれが普段どのように関わり、どんな恩恵を受けているのか、また山のある地域が、どんな問題を抱えているのか、県民が”他人事”ではなく考える日とする。また、観光県として、他県に”山の国信州”をアピール。山の恩恵や問題について、日本中に発信していきたい。
米川さん	長野県は全国でも希に見る高峰が連なり自然環境に恵まれている山国である。この恵まれた環境を保護保全し、より多勢の人達に活用していただく為に山の日を制定し訴える必要がある。
鈴木さん (座長)	山や森はおいしい水を涵(かん)養するのみならず、炭素固定・酸素放出や塵や埃の除去を通して新鮮な空気の供給にも貢献している。さらには、季節を通じて様々な食材を提供してくれる。スポーツの場としての健康増進効果にも優れており、山の恵みは実に多種多様である。全域が山であると言っても過言ではない信州の人々は、もっと山の存在に思いを馳せ、声を大きくして誇るべきである。都会の人々がおいしい水と空気、そして山の幸を手に入れることができるのは、「山の恵み」のお陰である。広く国民とともに、信州の山の恵みに感謝し、それを守り続けていく営みは息長く続けていかなければならない。ある特定の日のみで完結するわけではないが、思いを共有するという意味で「信州山の日」を制定する。

長野県の「山の日」(仮称)の制定に関する有識者意見・提案 【期日】

区分	期 日 (理 由)
赤沼さん	7月・8月 北アルプスの2,400m以上は10月から6月まで雪が降る冬山です。この期間は危険を伴うので山が安全に登れる7月8月がいい。家族や子供から高齢者まで楽しめる。
井上さん	残雪期(特にゴールデンウィークなどの)実際に県民が遭難しているわけでないにもかかわらず山岳遭難の報道によって、県民の山岳に対してのイメージが危険と認識されていることが事実ある。安全という側面からして、長野県北～南さらに標高3000メートルの山、多様性ある県内自然のすべてを含めて最低限の安全目安として、雪がとける梅雨明け時期が最良と考える。 第一案 海の日と同日もしくは近辺 梅雨明け10日と云う言葉があるように、最も天候が安定する時期のため 第二案 8月4日 『ヤッホー』という語呂で多くの人々(子ども達)に親しみを持って実際に山や森の中でヤッホーっと自然に呼びかけることや、『やっほーっ!!』という気持ちになって欲しいイメージとアクションを含む
牛越さん	「海の日」直前の金曜日又は「海の日」の翌日の火曜日を「山の日」とします。これにより、7月中、下旬に新たに4連休が生まれ、日本を代表する山岳を持つ観光県としての信州、長野県への誘客が図られる効果が期待できます。また、この時期は、梅雨明けの頃に当たり、「梅雨明け10日」は山岳の天候が最も安定し、雷の発生も少なく、学校も夏休みに入ります。4連休が、春のゴールデンウィーク、秋のシルバーウィークとともに、夏のブロンズウィークとして定着すれば、幅広い年代で山に親しむ機会が大幅に増えることが見込まれます。そのためには、国会議員連盟が進めている国民の祝日としての「山の日」と同一になることが望ましく、積極的に働きかけ、協調することが必要と考えます。
垣内さん	6月初旬 新緑はすべての季節の始まりとも考えられるのでふさわしい時期と考えられる。登山を中心として考えられるならば、もう少し季節が進んでからがいいだろうと思いますが、里山から高い山までの全体を考えるなら、物事の始まりの季節がいいと考える。
神谷さん	8月8日 隣接する岐阜県、山梨県が8月8日を山の日としているので、より意識を交流し、学び合う事ができる
神津さん	1案 7月第3月曜日(海の日に合わせて、海のない奈良県で実績) 2案 春の山の日、夏の山の日、秋の山の日、冬の山の日の4回(四季折々で姿を変える山々に関する取組が期待できる。年に4回ある県は他にない)
島立さん	長野県は南北に長く、市街地と山岳地帯との標高差が2,000m以上あるので、1年の内の1日だけを山の日とするのは県民が納得しがたいと考えます。 1案 県全域のことを考慮すれば、春夏秋冬に山の日を1日ずつ設定する方が効果的ではないかと思えます。案として春4月、夏7月、秋10月、冬1月とし、それぞれ最終日曜日等を期日に指定し、春山の日(新緑と山菜)、夏山の日(山岳地域)、秋山の日(紅葉と秋の味覚)、冬山の日(スキー等)としても良いと思えます。 期日は春5月、夏8月、秋11月、冬2月の各8日(ハの字を山にたとえる)としても良いと思えます。 (春は4月末から5月上旬頃、秋は10月下旬から11月上旬頃、夏は7月下旬から8月上旬頃、冬は1月下旬から2月上旬頃が理想として期日を選びました) 2案 山岳地域の貴重な自然を主として考えれば安定期である7～9月に制定するのが望ましく、山梨県と岐阜県が8月8日を山の日としていることから、長野県も同日とすることで中部山岳地域の連携が可能になると考えます。
杉山さん	海の日 長野だからこそ海の日を山の日とする考え方は内容としても最もだと思し、県民の皆さんに覚えていただき易いと思う。また標高の高い山々でもイベントを行う事ができると思う。
田中さん	春の方がいいのではないのでしょうか。雪がとけ、野山が緑につつまれる5～6月ならと思えます。
浜さん	7月の全国の海の日と同日にする。 ・国民の祝日なのでイベントがやりやすい。全国へのPRもしやすい。 ・海と山とは相互関係において恵みをもたらしてくれる。海への感謝も込めての山の日にする。
松沢さん	1案 7月～9月の間(北アルプスでは10月～6月までは冬山と考えており、夏山シーズンが望ましい) 2案 海の日(の)の連休に繋げる
水本さん	子供達への関心を高めることもあり、家族で参画出来る夏休み中が良いと思われる。
宮本さん	【期日設定の考え方】 ・適した時期 【具体的な期日】 ・次回の会合では十分な論議を ・休日、休業に合わせる ・国と同一の日 ・時期、日数、回数にこだわらない
山本さん	オンシーズンが共通しているウィンタースポーツのシーズン初め、12月初旬にすることによって、観光客を集めるきっかけにする。・・・登山は一般には敷居の高さを感じさせるが、ウィンタースポーツはより身近なので。 既に「海の日」として定着している7月第3月曜日。あえて長野はこれを「山の日」とすることで話題になり易いのでは。山と海の深いつながりを考えれば自然のこととも思える。
米川さん	1月17日、8月17日の2日 昔から全国の山に携わる人々が「山の神の日」として、山を崇め祭りをする日を毎月17日に行い、1月と8月を大祭りとしていた。 特に長野県はこの祭りを大事に今でも行っている。この機会にこの日を祭りの日として制定してはと思います。
鈴木さん (座長)	8月1日 時代を担う子供達とともに、山の恵みについて考え行動したいという願いを込めて、夏休みに入った8月1日とする。 (〇月第〇月曜日では、祝日のための祝日のようで、思いが籠もらない。)

長野県の「山の日」(仮称)の制定に関する有識者意見・提案 【名称】

区分	名 称 (理 由)
赤沼さん	長野県山の日 長野県の山岳が他県と違いがあるため、長野県の山の日を設ける。
井上さん	『信州山の日』もしくは 日にちによって 『ヤッホーの日』
牛越さん	誰にでも分かりやすくするため、シンプルに「山の日」としたらどうでしょうか。仮に国民の祝日と異なる日を設定する場合は「信州山の日」とします。
垣内さん	「山の日」 美しく豊かな自然を「山」を考えて最適と考えます
神谷さん	山の日
神津さん	1案 信州山の日(インパクトはないが一般的で周知されやすい) 2案 信州春の山の日、信州夏の山の日・・・
島立さん	名称 長野県山の日 理由 分かりやすく、シンプル
杉山さん	信州山の日 シンプルで覚え易いのが一番です。
田中さん	前回の懇談会の折にも申し上げましたが、国の山の日が、高い山、登山を念頭に考えていると思われるので、信州の山の日には生活の山、里山、ふるさとの山へのイメージをこめて。
浜さん	「山の日」もしくは全国の山の日が制定されることを考えると「信州山の日」
水本さん	しあわせ信州「山の日」 信州ブランド戦略として決定したキャッチフレーズ「しあわせ信州」を冠に付けたもの
宮本さん	【候補】 ・長野県山の日 ・ながの山の日、山の日ながの ・信州山の日 ・しんしゅう山の日、山の日しんしゅう ・山の日
山本さん	「山の日」 シンプルで、イメージし易い。 人それぞれ、”山”について想像するものは違うとは思いますが・・・。
米川さん	山の日
鈴木さん (座長)	「信州山の日」 「信州」には山や森を包含する響きがあり、無機質な「長野」に比べて格段に名称としてふさわしい。

長野県の「山の日」(仮称)の制定に関する有識者意見・提案 【取組】

区分	取 組
赤沼さん	家族や子供から高齢の方々まで参加できるものが・・・。
井上さん	<p>第一に、長野県民のためへの意識の向上でなければ全く意味がないと思う。地元の人が山や自然を大事に思うことが愛着につながり、次につなげてゆける。ただ、残念なことにこの30年間その愛着を培ってこなかったことによって、自然意識が薄れている現状があるように感じる。30代20代の親世代の空白を埋めるためには、子ども世代への教育として伝え、反対に子どもから親へ自然についての共有をしてゆきたい。時期的に時代の流れのなかで自然やアウトドアへの興味は拡大している傾向にあるため、一つの転機とできる可能性がある。ただ、県外の人々の方がメディアや客観的視点から自然の良さや楽しみ方を知っている。県民は山や自然について「あたりまえ」恵みを認識していない、また地元だから余計に実際に足を運んだことがないことが多いため、意識が薄く感動や非日常感を生み出すことが難しい現状がある。それを埋めてゆくためには、自然と人をつなぐ『メディア』『人材』の活用が必要となると考えます。</p> <p>前回話題になった学校登山。自分も看護師としての付き添いで一緒に登山をするので感じることである。なぜ山に登らないといけないのか？子どもも親も、そして教員も負担に思っている現状がある。実際、自分と同年代の親世代は学校登山でもう二度と山にのぼりたくないと思っている現状が多くあります。なぜか、子どもが普段と違うフィールドで自然を学ぶ。とても大事なことであり長野県伝統として特徴としてあっていいことだとは思いますが、まず集団で登山することに無理があるのではないかと考える。安全面からすると100人がぞろぞろ歩いていて、列になって登る。上りの他の登山者とのすれ違いの事故。下山時に列の間を開けない為に走り転落事故。安全にたいしての職員の責任負担の重さ。皆が気持ちの重さを感じていると思えます。</p> <p>自然教育のフィールド、思春期に与えられて山に登ることと青年期に自ら考えて山にゆく行為は意味合いが全く別であると思う。県内に住んでいれば5年生自然教育でキャンプがあり、中学生で登山があるパターン。自分自身も記憶のなかでかなりのストレスを感じていたように思う。その段階にあった教育のステップがある。甘やかすつもりではないが、例えばもっと簡単で安全なところからのステップアップがあつていいのではないかと。そうでなければ、山の山頂に登った途端に気持ちが完了してしまう恐れが多くあるように感じる。</p> <p>今の子ども達により興味や楽しく自然を知ってもらうために何が必要か？</p> <p>県内にある自然教育の施設の活用とともに、そこをつなぐ人材の活用であると思う。</p> <p>教師はあくまで学校や教育の現場でのプロとして関わり、自然フィールドではそのプロが少人数で関わることを望ましい。登攀ガイドだけでなく自然ガイドもふくめて、むしろ自然ガイドなどの初心者へのすそのを広げるためにより多くの教育環境での活躍の場を提供してもらえることを望む。ガイドの質をより上げるため人を育成する現場の活用(山岳センターなど)さらにガイドの定期試験や講習、評価を行い質の向上を図る。その人間力が 長野県自体のブランド意識を高めることができるようなメディアの活用。</p>
牛越さん	文化的イベントとして、山と自然のシンポジウム、写真コンテスト、詩や短歌、絵画等の文芸コンテスト等を開催します。また、体験イベントとして、登山、トレッキング、キャンプ、自然観察、小鳥の声を聞く会、里山の手入れ等を開催します。
垣内さん	「山の日」制定に努力していただいた 各団体に加えて 地方自治体に努力していただく
神谷さん	山に対する多くの課題(山岳遭難事故、野生鳥獣被害、森林の荒廃、オーバーユース等)に具体的に県民全体がどうあるべきかを考え、次世代を担う子供達へ山や自然の大切さを共に学び合う
神津さん	<p>○ 市町村を含めた様々な組織・団体のおもいや願いに即した、自発的で、特徴のある任意参加型の活動でありたい。</p> <p>例 山に親しみ・・・身近な里山の自然観察会、ふるさとの山の登山体験、山菜、ジビエ、薬草など山の恵みを味わう等</p> <p>山に学び・・・自然調査活動、アルピニスト等による講演会等</p> <p>山に生きる・・・環境保全啓発、環境保護活動等</p> <p>○ 小中学校では、日常的に各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、学校行事等を通して山々について学び、親しんでいるが、改めて山の日にはその趣旨に沿って、「地域の山」、「ふるさとの山」に焦点を当てた取組も可能ではないかと考えている。</p>
島立さん	<p>制定趣旨や期日により取り組む方向が決まってくるかと思えます。県民が自然と関わることと、自然への思いを巡らせる機会を与えることになると思います。</p> <p>山フェスティバル、シンポジウム、ネイチャーフォトコンテスト、植樹、美化活動、自然観察会、テレビ番組の製作(体が不自由な方のために)、その他教育現場での活用など、多くの取組が可能です。</p>
杉山さん	<p>地域(市町村)単位で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイキング・軽登山 ・間伐体験 ・地域材で造られた住宅見学会 <p>各イベントで関係者と県民と一緒に参加できるシステムがいいと思う。</p>
田中さん	里山の整備など、美しい山をつくる記念すべき日、心をよせる日として取り組んだらいかがでしょうか。

浜さん	「信州山の日学校」を山の日に開校する。講師は多方面にわたって集め、自分の興味のある授業を受けることができるようにする。 →料理、木工、絵画、自然、気象、伝説、実践山のぼり、アウトドア、生き物、植林、家づくり、などーほんの一例です。
松沢さん	美しい自然や山について考える機会をつくる。 自然環境整備等を通じて山に触れ合う機会をつくる。
水本さん	<ul style="list-style-type: none"> ・県下統一した植樹・植林 ・県下統一した下草刈り ・県下統一した登山道の整備、修理 ・県下統一した山がかかえる課題を考えるイベント
宮本さん	<p>【形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全県的な取組 県や全県的な組織が中心 県民全体のリードと各地の企画のサポート ・各地、自治体の取組 これが中心となる 内容は、それぞれの企画で ・学校等の取組 <p>【取組の主題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山を知る ・山に学ぶ ・山に親しむ ・次代に伝える <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会、シンポジウム、映画会、研究発表、展覧、展示、実演 ・観察会、工作教室 ・登山、トレッキング、自然探訪、体験学習、コンサート ・保全活動、植樹、川遊び、工作教室、調理体験
山本さん	期日によっても変わってくると思うが、その地域よってのバリエーションはあるとしても、共通して山の恵みについて感謝する日にするべき。 また「山の日」のあたりで、子ども達に山の学習をする機会を与えたい。山の国、信州を知ることによって、郷土愛を育てるきっかけにもなるのでは。
米川さん	信州の山と自然の素晴らしさを県民が全国に訴え、県民が主催する大きな祭りをする。
鈴木さん (座長)	可能であれば、8月1日から1週間を「信州山の週間」とし、「水や空気を考える」、「森の持続性を考える」、「みんなで登る〇〇」、「・・・」などの取組を広範にやったら如何でしょう。

長野県の「山の日」(仮称)の制定に関する有識者意見・提案 【その他】

区分	その他
井上さん	<p>自分は高校生の時に登山部に入部しようとおもったが、男性しかいなく諦めた過去がある。近年まで20~30代の女性が山にいるイメージはなかった。70年代に登山をされていたいわゆる団塊の世代が登山では多く活躍されている。80~90年代の物質的な豊かさで余暇の活用の多様性が進み、人工的なアミューズメントやゲーム機器の飛躍的進化により自然に目を向ける意義を見いだせなかった時期であったとも思える。しかし、時代の流れと登山業界等の努力もあり若者の登山や自然についての興味が生まれている。ただ、70年代を仲間と競争的・ハードでダイナミックな登山とするならば、現代はみな仕事を抱え個々での癒しや、ささやかな達成感を求めるコンパクトな傾向であると認識している。実際に世代感の温度差を山小屋や雑誌関係者は感じ戸惑いも多くあると耳にする。しかし我々は安全を重視し情報をインターネット等で入手し、服装こそ少々派手であっても個々に比較的真面目に山や自然を楽しんでいると思える。さらにそこに20~30代女性には結婚・出産等のライフスタイルの変化がある。そのため持続的には山にゆくことは難しいが、結婚して家族を持った多くの友は、ゆったりとしたハイキングや整備された里山歩きを求めているニーズは多くある。さらに子育てがおちついたらまた登山をしたいと考えている者も多い。そんな、若者に根付いた自然に向かう気持ちをチャンスとして、ライフスタイルにあわせた提案ができればより多くの人々が信州の自然を感じることができるのではないかと思います。地元の人々が愛する場所、なによりも地域住民の支援や理解があって次の観光や本当の価値としての意味付けができてくる。観光やアウトドア雑誌関係者から、「県外から自然観光に行った人が、地元の人とその観光地について存在すら知らず、行ったこともなくて非常にながかりした。」これはととても残念なことである。例えば上高地。自分は松本市出身であるが、周囲の友人も6割ぐらひは上高地に行ったことがないと答える。さらにその子どもたちは親がゆかなければ、もっと足が向かないのは明白だろう。地元の人々はその『ブランド感』を実際に体験していないのにどうしてその価値を他の人に伝えることができるのだろうか？県民性として頑固で真面目ゆえに、「すごいでしょ」「いいね」と口に出して褒めたりすることが苦手な人が多いけれど、それを先導してまとめ導いてゆくのが行政や教育の大きな役目である。最後に山や自然を支えてゆくのは、そこで生活しているひとりひとりが地元を大切にしたいと思うことだと信じます。</p> <p>【結論】 団塊(60代)→子ども(30代)→孫世代 サイクルのなかでの 孫世代への山や自然教育を強化し孫世代→子ども世代への自然への再教育と啓発を望むシステム 県民自身への自然の恵みのブランド感を意識して誇りに思えるメディアや教育必要性 時代を超えた山の捉え方の相互理解し、文化としての自然を残す為の継承の獲得</p> <p>【具体策】 音楽からのアピール 子ども受けするキャッチーで親しみやすい『山のうた』制作(いつでも、どこでも、だれでも口ずさんでしまうような耳に残る曲) 20~40代の自然教育やガイド専門分野の人材活用強化。 森林間伐管理のシステム化をより強化。木材活用の県内企業の参入と補助。 山と森も守る 里山~高山含む山の環境整備・鳥獣などの被害に対して猟銃保持推進(主に若いマンパワーの活用)。 信州公認キャラクターを活用した、山のPR 例) 『アルクマと一緒に 山に連れて行って』 子ども達が、アルクマのぬいぐるみをリュックの横につけて、山や森に行き写真を撮影して投稿するプロジェクト(主体をあくまで山や自然の中にゆく子どもや親にゆだね参加型PR) 登山学校の充実。山での記念品プレゼント。(ご褒美的なもので、学校登山が訓練的な意味合いが多いため、レジャー感思い出を持続させてあげたい。それを見ると山を思い出せる品。リュックなどに皆でつける→苦しいことを共にのりこえたキャラクターへの愛着&一体感 意識の刷り込み+子どもと親までファンを獲得 →さらにグッズ購入のアップ。多くの子どもがつけることによって他県の人にも欲しいと思う連鎖もねらう) 『ヤッホー』 プロジェクト 山や森の中で ヤッホーと呼んでみる 具体的な目的意識を提案 木のぬくもり体験 木材を使用していつも使用する 箸やスプーンなどを制作</p>
牛越さん	<p>「山の日」の制定は、県民がこぞって山や自然の恵みに感謝し、その大切さを皆で考える日とするとともに、山岳観光県信州にとって、山に親しむ大勢の人々を迎え入れる日とするのが重要と考えます。</p>
垣内さん	<p>国の「山の日」が制定されそれが長野県の「山の日」と相違した場合 混乱が予想されるがこの場合の対策をどうするのか 考える必要がある</p>
神谷さん	<p>「海の日・山の日」という考えもあると思います。日本という国にとって海と山は表裏一体で、どちらの日というより、2つで1つでもあると思います。</p>
神津さん	<p>川の情景や恵みも信州にとっては大切な資源であり、切り離して考えられない要素であるから、山の日に併せて盛り込んでみてはいかがでしょうか。</p>
水本さん	<p>県独自ではむずかしいかもしれないが、休日としてほしい。</p>
宮本さん	<p>県民の意見を最大限、聞いていただきたい。</p>
山本さん	<p>ありふれた派手なイベントですぐに飽きられてしまうようなことはすべきではないと思う。回を重ねる毎に広がっていくような、育っていくようなイベントを考えたいと思う。</p>
鈴木さん (座長)	<p>現行の「海の日」を「山と海の日」に改称してもらおう働きかけを行う。 わが国は四方を海に囲まれている、国土の約7割が森林(山)であり、山と森の国でもある。よく知られているように養分や土砂が山から海に運ばれることにより、豊かな海産物に恵まれ白砂青松の景観が維持されている。また、この養分や土砂を山から海へと絶え間なく運搬し続ける水は、海から蒸発して雲を作り山の上に降った雪や雨が源である。わが国の水資源として重要な役割を果たす大量の雪も、日本海と脊梁山脈の両者の存在が不可欠である。このように、山と海はきわめて深いつながりがある。よって「海の日」と「山の日」を別の日に制定するのではなく、「山と海の日」とすることが理に適っている。そして山と海の恵みに感謝し、自然環境を見つめ直す日にしていただきたい。</p>

長野県の「山の日」候補日カレンダー

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
赤沼さん													高山帯では10月から6月は冬山
井上さん							第3月曜日 又は近辺	4日					梅雨明け十日 「ヤッホー」
牛越さん							第2金曜日 又は第3火曜日						夏の大型連休 全国統一の日が望ましい
垣内さん						初旬							里山から高山まで含めて物事の始まりの時期
神谷さん								8日					隣接県と協調
木谷さん													
神津さん							第3月曜日						四季毎に年4回の山の日を設定
島立さん								8日					四季毎に年4回の山の日を設定
杉山さん							第3月曜日						長野県だからこそ海の日に山の日とする
鈴木さん								1日					子ども達のために夏休み期間中とする 第〇×曜日では思いが籠もらない
田中さん													春、雪が解け、野山が緑につつまれる時期
塚田さん													
浜さん							第3月曜日						・イベントやPRのしやすい国民の祝日 ・海への感謝と併せて実施
細川さん													
松沢さん													海の日との連休に繋げる
水本さん							夏休み						子ども達への関心を高める
宮本さん													休日や休業、国の日等に合わせる 時期、日数、回数にこだわらない
山本さん							第3月曜日					初旬	ウインタースポーツの集客効果 山と海のつながりを考える
米川さん	17日							17日					「山の神信仰」
渡辺さん													
県政モニター				(14.7%)	(33.2%)	(20.5%)	(24.2%)	(19.1%)					新緑、山開き、植樹活動、登山、気候安定等
県外調査					(32.0%)	(11.3%)	(23.7%)	(24.7%)					新緑、気候安定、夏休み、山がきれい等
観光地点調査					(29.7%)	(20.9%)	(17.3%)	(13.2%)					新緑、登山開始の時期、夏山シーズン等
小中学校夏季休暇							第4土曜日 その前後						平成25年度学校経営概要のまとめ(長野県教育委員会編)より、平成24年度実績
梅雨明け							18、19日頃						関東甲信地方の梅雨明け時期(頃)(気象庁)より、過去30年間の実績

平成25年度長野県の「山」に関する施策の取組状況

(単位：千円)

区分	取組の名称 (事業名・施策名・行事名等)	取組の主体 (県・市町村・団体・その他(具体的な主体名))	取組の概要
環境	自然公園施設等整備事業	県	自然公園内の歩道、公衆便所等県有施設の補修、整備を行う。
	自然環境整備支援事業	市町村(県：補助)	国定公園等の自然環境の保全と適正利用を図るため、市町村が行う施設整備に対して補助を行う。
	民間との協働による山岳環境保全事業	市町村(県：補助) 山小屋関係団体(県：補助) 県	民間からの寄付金、ふるさと信州寄付金を活用し、自然公園内で市町村及び山小屋関係団体行う山岳環境保全事業の内、他に補助制度がない事業に対して補助を行う。自然公園内の登山道の実態を調査する。
	生物多様性確保対策事業	県	長野県版レッドリストの改訂、生物多様性保全活動協働事業(立入禁止策設置、シカ侵入防止柵設置等)等を実施する。
	希少野生動植物保護対策事業	県	希少野生動植物保護回復事業計画の策定、希少野生動植物保護監視体制の整備を行う。 ・希少野生動植物保護監視員134名を委嘱(H24)
	美ヶ原・霧ヶ峰自然環境保全事業	県	美ヶ原、霧ヶ峰の自然環境の再生、維持管理を行うボランティア活動等への支援をする。
	自然環境保全地域等標識板設置事業	県	長野県自然環境保全条例に基づき指定した県自然環境保全地域等の標識板を整備する。
	自然探勝会事業	県	身体に障害のある者が自然に親しむことができるよう、探勝会を開催する。 ・4回開催(9, 10, 11月)、延べ参加者201名(H24)
	自然保護センター整備・運営事業	県	自然保護の普及啓発や自然環境に関する情報を提供するため、自然保護センター(霧ヶ峰、乗鞍、美ヶ原、志賀高原)の管理運営を行う。
	国定公園自然環境保全対策事業	県	国定公園に公園管理員を配置し、美ヶ原周辺における植生被害対策等を行う。
	自然保護レンジャー	県	自然保護レンジャーを委嘱し、自然公園等の巡視、利用者指導及び情報提供を行う。 ・372名委嘱(H24)
	上高地、乗鞍岳自動車利用適正化	上高地自動車利用適正化連絡協議会(県から負担金) 乗鞍岳自動車利用適正化連絡協議会(県から負担金)	上高地におけるマイカー規制及び観光バス規制、乗鞍岳山頂付近のマイカー規制を実施する。

区分	取組の名称 (事業名・施策名・行事名等)	取組の主体(県・市町村・団体・その他(具体的な主体名))	取組の概要
観光	山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり推進事業	県	(1)「3000m級の山岳など他県にない自然と美しい景観、自然を守り共生してきた信州の暮らし」などの信州らしさを追求するとともに、「多彩な滞在メニュー、充実した観光案内、魅力あるまちづくり」など世界水準のリゾートを参考に次の3つをポイントとした「滞在型観光地」を目指す。 ① 徹底した環境保全と信州らしい美しい景観 ② ゆったりと楽しく過ごせる ③ 誰にでもわかりやすく使いやすい旅行環境 (2)これらは、地域が主体となった自立的・持続的な活動の上に成り立つものであり、その意向のある市町村、関係者と協働して滞在型観光地づくりを行う。
	山岳遭難防止対策事業	県 (長野県山岳遭難防止対策協会)	山岳における遭難の未然防止及び遭難者の捜索、救助の万全を期するため関係機関、団体が協力し、総合的かつ計画的な遭難対策を樹立しこれを推進することを目的とする。 (1)総務部(観光企画課)…各地区遭難防止対策組織との連携、登山案内標識の整備等 (2)防止対策部(教育委員会スポーツ課)…山岳遭難の防止指導(常駐隊、相談員設置)、気象情報の伝達等 (3)救助部…遭難者の捜索・救助活動、救助訓練等の実施
	信州登山案内人の利用促進事業	県	平成24年4月1日から施行した信州登山案内人条例に基づく「信州登山案内人」の資質向上と積極的なPRにより、信州登山案内人の利用促進を図る。 ・平成24年度信州登山案内人能力向上研修 開催地：座学研修(塩尻市、安曇野市)実技研修(安曇野市等県下11箇所) 受講者数：232人 ・ポスター及びチラシの作成(3万4,000部)
教育	スキー教室・登山学習	学校、県教委、市町村教委	長野県の特徴ある体育的行事として実施されている活動であり、日常生活から離れた大自然の中で、活動の楽しさや喜びを味わうとともに、自然環境への配慮等を学びながら、自然を愛する心を育む。 (H25計画) ・スキー教室：小学校356校(96.2%)、中学校29校(15.5%)、高校21校(20.2%) ・登山学習：小学校87校(23.5%)、中学校156校(83.4%)、高校4校(3.8%)
	山岳総合センターの管理運営	県教委(指定管理者：「長野県山岳協会・やまたみ」)	山岳に関する調査研究及び安全登山に関する知識、技能の普及啓発等を行う「山岳総合センター」の管理運営。 ・安全登山講習：指導者用、リーダー用、一般用、集団登山用等(H24：44回 841人) ・野外活動講習：信州山の自然楽(植物、動物、鳥類、地形等)(H24：13回 200人)
	競技力向上事業(山岳競技)	競技団体(長野県山岳協会)	国民体育大会等で活躍が期待される県内の山岳競技選手の育成・強化を図るため、長野県山岳協会が行う選手強化事業に支援し、県内スポーツの競技力向上を図る。 ・北信越国体に向けた選手強化 ・本国体に向けた選手強化
森林	みんなで支える里山整備事業	市町村、森林組合、NPO法人等(県：補助)	集落周辺の手入れの遅れている小規模・分散的な森林(いわゆる「里山」)又は水源を保全するための森林の整備を推進する。 ・平成25年度計画：3,000ha(間伐) ・平成24年度実績：4,890ha(間伐)
	野生鳥獣総合管理対策事業	県、市町村、被害対策協議会、ジビエ研究会等(県：委託・補助)	野生鳥獣による農林業被害等を軽減するため、捕獲対策、防除対策、生息環境対策、ジビエ振興等の各種施策を総合的に講ずる。
	森林(もり)の里親促進事業	県	手入れの遅れている集落周辺の森林(里山)の整備を、県が仲立ちし、企業等の社会貢献活動へと誘導し、地域住民と企業の参加による森林づくりを推進する。 ・企業誘致活動：年15回(パンフレットの作成：3,000部) ・平成24年度末契約実績：87件
	全国植樹祭推進事業	県	県民参加による健全な森林づくりの推進を目的に、平成28年の第67回全国植樹祭の本県開催に向け、実行委員会の設置、運営及び基本構想の策定を行う。